續々群書類從

教育部

不用

但徠先生答問書

中

口付3
1204
2

2

門 口 3
1204
巻 2

紅葉山文庫

徂来先生答問書中

一

経学ハ成仕角ニ出窮繫ニ成仕ル。但法ト人トハ差別出来雑ニ成ル。故ニ経ニ云ヒ来ル。法ハ死法有ル。ナレ共不仕法モ有ル。依テ法ノ吟味モナクテ不叶事ニ成ル。経学ヲ学ル人。多ク只仕形ニ成テ無味ヲ吟味仕ル。道ヲ不存ル過ル。苟非其人乃不虚行事有ル。法ハ人ニ因テ所要ニ成ル。

たとひ法ハ聖人ハ能く人を相應し利益ハかりと雖も。
法計り吟味仕る人無御座候て。何ぞ用る立ハ。又人
醫の法ハ遠り物に。法ハ先王より法不吟味仕まりる事
なしと。王莽王あんせきが用捨ハ毒を天下に流しハ。
經脉の法計を以穿鑿をかりて。人々金銀をしいた
白人醫者と名方を集めに類ふて。何程と紅藥方
ても。醫者下手ハ人と病ハ金ハ。名方ハ不利ても。
醫師功者と人と病を相應ふ金しハ。又名方ハ
用ふ人不ふ法ハ雖用也。其醫者器量より。

用不法方も有しハ。
ふ。紀人を得ハ時ハ法ハ人より生ハ。人ハ金銀
をしいる。法と以穿鑿計を以病相ハ自分の才
智を法用ふ事を以おのれ家ふ。是既に大
量と言ハ。秦始皇ハ書を斷ふ坑ハ。書經百
篇と統て。ふの用法心ハ事と相見ハ。此時得
以命得物ハ有し度ハ。法求ハ答ハ。かしこを
中ハ。多年と以結ふ付星愚志を言ハ。
其書を付て再業法弱ハ。人ハ聖と以雖後ふ成雖也。

此段も世失云ふ事なり。されば今時の人学問結構。大形も甚だ多くの事なれ。實に其男ばかり事も一方なるべし。文過しの云ふ事なり。真実なる事なり。男女とも。大きなる事過ぎて世失い。國土も多く數を生じ。材木多く世を生じ。古も今も諸の事。世界に用事なし。世界に用事なし。此事八行れの世なれども。人とても其ぬくれ。故聖賢教書に用ひる生人。教化缺ける代に人八。諸りに成れ。其時代に用ひる程の人才八必有し。地に。國無人と事有しを。世間沢山にても。決朝廷に

人才きこゝにて。朝廷に人才きこ八用ひざるが故に。朝廷に人才きこ世に。賢才下僕に沈む。或八民間に埋もれる。乃至常類也。天乃に対し。如何も。無き事なれ。早竟お書世答中に。自分に才智と。用ひ世病根。弱膜なる。ある人の世間に。事なる事。書面に。出して表。人才に。世八。空て世に。注文有し。其注文に合ずを八人才に不必に。相見て中。家儒坊も。おろし注文とあり。病有に。通鑑綱目と見也。天下古今に一人も。弟子に

今の人見て手本に成る。皆と咎人と成る。綱目を御覧なされ
無爲なる〻常〻なれハ此義なし。手本より注文を出し人を
御さがしハ。手本〻に御知ずきを出されて出られ。その
内注文に合い人ハ天下古今未曾有なり。此人を捜ハ
子細ハ人心不同なる面の。足下〻に面し拙なる人多し。是
性なり。拙授こい。たれに六借〻に為り人。此望〻人多し。面
に出来。下たり人皆あ波逢迎に成り。今世〻通
病此事とでもり。徒〻に学て成ハ。
一 老角人の内見分け長所なり。御親切多

此易〻なれ。たれと三打〻て成〻に出来。若又
委細〻了点。お書に中点〻あ〻に御出を出
成ハ〻なれ。是〻ハ故〻〻事に。平竟ハ此一人の誤なり
言葉世話し無学なる人〻自分に
ぬ至かなれ。世話〻無学なる人〻。
皆難阻険難を歴練〻なる人。治乱盛衰〻を
晴くれた。人情世態ハ徒〻弾んで〻。今時〻人の
中〻物を乱遣ふ心ハ多し。治平久敷続き。世界の
人多居。幼少〻富貴に成長〻て。人情世態を歴

練り。物ごとに心がけ。そのきっかけ。心次第に細に賦こなり。
物と氣遣ひなく。そのきっかけ。仕業次第に細にあり。
過失を咎むる事甚しくて。下なる過失なきれど押へ
かくすと。今時八紘役人なり。是なる面々も過失な
き様に心をけ。子孫とも末に教へれ。是今世に習
ひなり。心得なり。人々物毎に踏込む事なく。上なる
踏む事を第一と仕へ。それ人々嘗なれ。是なるも
のなり。是下も御先祖様時代の事学ぶべし。
今の世なり。是なる時分に各々なる人々は八百

疵物とは是別に細に云ふ。この時分八百隠れ
事云ふなり。疵見とは。疵見てやはり人才八百。
今時も世なり無倍に深き人八疵多く出る。疵
物になりて八人才八なき物と云ふ。疵物に内に深
思ひて外。疵もなく才も長しい人を出る。
やはり物を紀の注文にやはり物とし。疵なる人八御原の巧之令
色の物八肅人なり。是八思ふべし。以上
一疵物の使ひにくきは。
人情世態に歴練なる。疵物なる。害と。
人情世態に歴練なる。疵乃害となれば。

種の機しきは注意出来申候。此氣遣ひ止申候
ハ、出来ぬ。出来ぬ間未熟にて小量なる新しく
打不遠(たがはず)こゝに問ハ来ぬ。病物にて
あるべく也馬のごとく。彼がくせを殺しゃの時に
こゝに仕組合点ふかい間ハ氣遣ひて欲ハ
出来ぬ。坐なぐ(ゐなぐ)に其ゐ組こゝに仕組合点多き物にて
馬殺し者なくら〳〵拵くせ馬とのゝ者なり。
に馬術流儀なしにたるとも出来ぬ。又仕組馬術流
儀にて一ゝ。馬も活物にて人きくせの相違たるに如何

極りなる物にても出来ぬ。只氣遣し心ばせ
なるかゝ出来ぬ。押出申ばかりにて人たるの
氣遣ハなれ物にて人の合点多き物なり。三度も
なけらるゝ心得にて常なりてハくせ馬にてのゝ者
今時人者人の過失を咎める心ばせにて
失なれ相こと多ぬ。是ハ人を使ひそこなふ
法なり。病物にて使ひ方ある紀事なり出来ぬ。馬に乗
そこなふ人なりてハ馬ハ此の得ぬ事なり。人を使ひそこ
なふ人者にてハ人を使ひ不得ぬ。竟の騎を使ひそこ

なし。用ゐの鍼灸を捨ひそこなひ捨ふて此命を
失ふ。人の使ひうこなひなれたれと思ふ人は聖人賢人と
思ふ。大なる惑ひ也。醫者のまゝ療
治をいたすなり。石膏附子は松を八調法の薬なり。下ま
醫者八病相に従ひ一の附子。石膏附子は絶対て石膏
附子の害なき薬を求めるなり。たれなる薬八古しり
今ゝ初めて出し事にはあらず。長所を用ゐる人と
病八用ゐるなり不中。薬八皆毒なり。毒と名を付不
中るの八長所を用ゐるなり。お書に病相〻中るは今世

此習俗より名を付けそ。此今延年を求れたるなり
此なり。そ実八天地の万物なり。名長短得失は
長所とは知ふ。長所を用ゐ時八天下に棄物無し。
病相と思ふ。人を用ゐる。其長所を捨て短
所を用ゐる。人の通て是なり。是れ
氣質を変化して。渾然中和の德を知なり。下ま
相なる邪気世に入り。下ま醫者八陳皮甘草を
集めて病を治す事なり。

一愚老ノ話ニ拠レバ。府知事ハ用ヒル所度量ヲ失ヒタリ。英国人ノ
長所ヲ見テ之ヲ欲シノミ。御任ク方法ヲ知ラザル。得ト
御工夫ヲ加ヘ。此目覚ヘ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]。たゞ此自分ニ出所
ヲ知ラズシテ。此所形変ハル。是モ大形ハ知ル所多
作。加様ニ[illegible]愚老ト自身ノ長所ハ知ラザル。但シ両
此道ハ知カラザル技術練ル。是計ハ長ケシ自負モ[illegible]
其外ニ[illegible]ハ技ヲ見テ[illegible]ル[illegible]知ラザル。是下ト[illegible]
此役[illegible]ニ上ニ[illegible]ル[illegible]。公道ニ立四ツ等ニ成ハ[illegible]
得[illegible]ニ[illegible]。其外侍大将ニ職分。[illegible]

ニ。内。教授理ニ[illegible]ハ。山縣馬場ガ同行ニ長所ニ
此所決ニ[illegible]知ラザル。是ヲ[illegible]。英国人ノ
[illegible]。人ニ才能ノ事ヲ知ルニ[illegible]ヲ知ルニ其人ヲ[illegible]
知ラザル[illegible]ニ居ラズ。[illegible]人相[illegible]。
通ハ各別ニ成。只ニ[illegible]ハ其人ニ長所ハ知ル[illegible]。
人ハ活物ニ[illegible]。事ニ[illegible]ケテ見ル人モ。今ニ[illegible]才能モ
知ル[illegible]ニ[illegible]。英国人ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]。[illegible]書経ニハ家ニ[illegible]事ヲ[illegible]
見ニ[illegible]事ニ[illegible]。先長所ヲ知テ後ニ用ル

技芸。人ハ用ゐる十分なれ。用ひてなしてハ初めの物を
ア玉思ふに。但用ゐ不就て又次第空なれ。此方より技芸を
教へそ使ひ人を。其人必ず事ゝなり不十分なれ十分
此才能ハ知ぬ地とそれ。小しの己失をゆるし不用に降す。
たとひ技芸を教へ事に成れ。相ひ形ゝ。用ざれハ
知ゝぬ。ゆだゝされハ微ゝ用ゆるとハ難し。是皆常の
道理也。是より外ニ又物道ハ言なれ。古聖人し
此相伝ゝ為ゝ。是ハ此ひ教ひ為なれ。
一武備ハ仮ゝ不可なれ。軍法ハ周礼大司馬ノ職分ニ

聖人ゝ道ニ対ゝ諸侯ゝ師ゝ卿ゝ軍ゝ旅ゝ
等ゝ法。軍ゝ事ゝ中ゝ不成ゝ。大形ハ玉風ゝ合ひて結ぶ。
得ゝ不成事ゝ有ゝ。
彼等ゝ中ゝハ多ゝハ古戦ゝ奮勇ゝ。大半ゝ世ゝ
乗ゝの上ゝ。
一ゝ仁政ゝ。
為ゝる事ゝ。
成ゝ養ゝ。
之ゝ楽ゝ。

生世界に於しては最初しより商を。士を上とし民を下とし其所にあり方多。黨をくみ仕を治めりすこし。其士皆采邑に住をを。いはゆる郷士と聚動して武士皆に家に敵やしに。郷士と旅宿なる処地人多く猶よ次第不必ずこれあり。国中ハ皆に順なるれ。士と国中を自由に游行さすきバ不法多きとして。是を禁ずるとして。地位を譲ん世次。民間のものに跡きされ。なりて仮人となりても陪を加次に。小分者采邑に居ざれど。百姓との交ハ。只ただ争計なれ。士と民と恩義相続ん。

難敵の思ひをなし次。采邑に住れハ恩義相続して。民ハ皆家人になる。一国の上下事ことして一致する事に。又。治を対て。獄訟水利等。其所切されれ人。事情を失ず。士と民との社会を立て贏餘を積て急難に備る時ハ貧困ハ患なし。民ハ愚なる物して。是人まして己が仕なれたれ事なしでハせぬ地に。渡世にくらさを思ひ。去る地に住て事欠る第を極させ。山をたて。或一百工を集め。商賈を通し。仕稼末重なれハ国家より地してなれ。商人多きハ国に害しなし。又貧国ハ商人を以て富を

支を有し。何きて商賈の通塞に心を付くべき事に
民に裕ふ。奢侈なれば厳刑をもて賭博を禁
衣服器皿に制度を立るに。其心を用ふる。主に
事心の行ふ所なれば。先王の所。國民の学
教をせざる故に其罪に陥事に。此を寛
廉恥を尚ふを。漢の武乃ち。弓馬法力の術。
催促に及ぶる事に。
一 武士は国郡に根ざす。国郡を領作人に
君ふ其地を賜ふ。地を人に

奪ふ。古天子を称ふ。諸侯
千乗ふ。卿大夫を百乗ふ。兵賦をもて名付ふこの
道理に。漢律に賊盗の律を最初に置ける。盗賊に及ぶ
同類に和に。盗賊を禁ずる為に武士を設ける。武士物
先に公に。治平の事に。時に兵威をもて民心を懲
して。盗賊起る時は。速に討滅す。
今時に代大に郡県令を置く。此法なれば。
其所を治むるを職とす。只年貢の立計を
肝要に。書筭の部人を設ける。職位も卑

ふもとのぜい部労働。職罪に従ひ多出来い。一二万
石二三万石計り領主ハ。兵士し数も少く。領内も狭く
千餘に ふ及ひ。七八万石十万石も上ハ諸侯ハ必代
皮し武備を如へ不中ハ不叶事ハ。検見とやう世上
有之ハ。計算の人なしで代皮ハ多し事ハ。よかい。
貢賦し法ハ。常免を初極に仕い。三代し法。夏ハ貢法殷
助法。周ハ徹法し。徹法ハ貢助し分に等しい。助法も
公田私田を分ちい れ後世に雖用い。貢法ハ常免し事
にい。大禹し法定りて い ハ。是も除い良法 ハ。聖人
し人情を通達し。古今し情弊を洞見 ハ。
立りし。世上し検見とや事ハ。
の奸典生し事し。定免に仕へ。賄賂し道断りて。
奸曲を防かぬ事ハ。
只秦漢し元明中でも皆定免に。検見をもて見
取に成しハ。国の財用ハ吏の囊囊に入し事
作。其上定免に成しハ。定額ハ定る。定額を
国用を制り れ ハ。簡役に。ハ。
誰しても代皮ハ動し事に。代皮を鄙職し定り
し。

喜家として志かゝる士を八ヶ付かゝる。是より先
果ハ卿大夫皆民間の情こうとく。木偶人のごとく如行
中に皆戰士の條理をうけて猶祖の制度ゝ守る思ひ
作。以上

一

交行より経全体政利を先ゝ流通をさゝるゝに
知極ゝきはゝ簡ゝて又及ふ人も無し相見てはゝ
大きゝ道に遠ゝ。政利を先ゝて行るゝも滯
さゝ作ゝくさゝれる事。尚分ハ才幹ゝ相見て
深遠ゝ思ひしる。後道ゝ害多ゝ生ゝ是仕ゝ

平竟の示。事ゝの次行ハ見ゝ物ゝ以ハ異ゝ
至ゝ可思ゝ。流通をさゝに仕人。商人に制せゝ
物ゝ。流通ハ天性商人の職分ゝ作ゝ人の更。
諸度ゝ力ゝも商人ハ及ハ是ゝ以て流通を
さゝ仕ゝ。財用ゝ權ハ必商人のまゝ成ゝて
思ゝ。皆ゝ尚度ゝ便利を仕ゝ事ゝ起り
中ハ。今一層深事ゝ思を加中度事に成ハ
一御身ハ主君ゝ成ゝ。家柄ゝ思ゝ。是ハ今附ゝ
中ハ理窟に成ハ。聖人ゝ成ゝ。平竟所詮

迎し只中し下に思ふに。家信も忠しきを見習ふ筋
解しやい。忠とやいハ。總ろ人〻事を吾分けるのゆゑ
なしかも如与なし事に。先ゝて忠臣し道に除蘊せ
ぬ。故義ふ依て余を棄りるゆゑ。吾身の事ゆゑに
なる問して相除ゆ事に。早竟聖人の道ハ國家を治め
る道なり。たゞし立れ世俗ふ分ハ遠ゆ。其分を而ち
上〻ゆ下に任せしし。下より上に任せゆゆて分きゆる
ゆゑ。今の世の風俗ゆゑ。上より打やかるゆ事
言ふれ。所なる者ゆ。毎日〻〻の日用れの分ゆれ

ゆゑ成ゆ。重き役人ゆ月番切の仕の紀して跡のう
ゆ構ゆ有ハ。其職ふ有なゞら戸位素祭ゆ物に。
身ハなさ物ゆ有ハ。ゆ見して所に。ゆ細ハ分を
部分ふ分ゆ人ハ妻婦ふ分て。女ハ分を人に任せ
いものなれ。己が分をあさ決。夫に打任せゆ事に。所ハ
君の命をうけて。其職分を以ゞ身の事ゆ有ゞ務
ゆ事に。然ゆ己が有命に合ゆ。以ゞ分ゆ義ゆ
なれハ。其職を辞ゆ事ハ。不忠ふ陥ゆゆ恐ゆ有に。分
を部細ふ分ゆ。以ゞ分ゆ分を出ゆ決。いかゞ分ゆ君の

ムナシモ二アラサレハ。ソレハ君一人ニテモ臣アリテ
ガヤウニコソ。臣ハ君ノ助ニテ。使ヒ人ニテハ家ヲ治メ
ヲ使フヤウニコソ思ヒ上ノ過ヨリ起リテ。聖人ノ乃ニハ好キ
ヤウナ事コソ。君ノ上ニハ油ヲ注ヲセザルヤウノ道ニ。臣乃
上ニハ己ガ分ノ事ヲ為ネバ不ナイヤウノ道ニ。君ノ思ヒ
次第ニテ。式方ヨリハ万ヒトシク事ヲ為ネバ。上下心ヲ二ツク
スルヤウナ物コソ。是皆忠ノ字ハ義理分キ事ヨリ起リ
ヤウ。終ニハ動揺アル人キ事ヲ為ネバ。
一文字ノ下ニ政務ヲ為ル。尤ヲ為ル根ヲ入ル事

ヲ為ネバ。聖人ノ道ハ。天ヲ敬シ祖宗ヲ敬シ事ヲ
ヲ為シ。天ヨリ附属ス。祖宗ヨリ伝ヘタル国ヲ
自分ノ物ト思ヒ。ヲロカナル俗ニ。古ヨリ祖宗ノ法ヲ
改ル物ト相見ヘタリ。両国ノ時ニ出来ル為ル
御心次第ニ改ル。先祖ヨリ伝ヘタル法ヲ。
出ス事ヲ。自分ノ心ニ。是御先祖ヲ敬ヒ
ヲ。ソハ言ヲ。真害ヲ為ル事ニ。ヲヲヨ知。新ヲ好ヲ賜リ
テ法度ヲ為ル人ハ。ワヲ家ヲ為ルヲ。家ヲ造ルヲ。
先祖ヨリ始ル。ヲ玉ヲ受ケ。ヲ人ハ人ノ造ル所ノ

信ぜざるべし。今其古家の住居を仕替しなば、苟
安にいたし。元来し地もせき別に成れば十分にくらし難き事
数に成れば、それ程をわけ。かくこの引地をうれしてそ遠分の地代を
住せて空い時ハ。思ひの外なる有り様。根貯高ち程ゆうそ。支
よう家の弱こと多し。出さぬ前しりハ思ふ様の事多き
地に。愚老ごときの貧者の古家に住られ者なしでハ。
此喩とする所を有る。又愚老ハ紀の年を重ね七十
ま成い人の。それ内に病気ハ久しき病も有し。気血弱
成い人ハ。痛歯を見たるハ古歯計の此の健さを見返さ

れぬ物なり。分の内に年久敷有しに病ハ。苦しく痛ハ
てるのけられぬ物なり。粗忽なる医者ハ。南分に見ぬ
住せ。こしらへ治せんと仕られ。病ハ金石ハ。元気とそこ
なひ命を縮ひる類多ハ。此道理を能く合得仕い
ぬ。祖宗の法ハ改めぬ。古人の言ハ世に名云く
なり。治礼堂表の式ハ明らかなり。人情世態ハ熟練な
くしハ。当分に是非良家に利害を思ハかるそ。国乃
古法を改ひるハ不宜事に成ぬ。民ハ習ひて安ん
ぜる物なり。久しく住ひる事。数代に成れぬ先より

深入りの外。さてしひ無疑、事にて勝手宜敷物に。世界
の人ハ相対なり抑て。彼是融通いたし一所にぬきなり。
年久敷なき来りしハ方々海ぎしひろぶ。そきに仮て
りて人の潤用を多くに。そもそも急に改いへて。ふつゝに思ひ
れかなるかけひづゝ抜ハ来りし事思ふ人き儀に。周公
の源く抜と出来。文武かりし書伝に相見に。聖人と智ハ
さもかりの敷事に。其ハ開國の初にて。此心伝に制作を
なり事にて人世を苦し儀に。是非を理の伝に
きなりきに。其の是非にて八言を対に。皆ぶ前に抜ぶ記

ぶ。平竟理学に儒仏の除ぶ外に。此新意雄伝
にいく抜に。此伝伝に詩をやをに。
輪廻転生に事抜く伝に。愚老八儒学に伝人に。
仏学に不伝。輪廻抜生に抜伝に。出家に儒仏
者に伝に了抜ぶに。但宋儒に伝に理気に論を以て輪廻を
破に理窟に。宋儒も亦冥府に抜を見に。
只理窟にて輪廻八事に抜に。仏者も大形八理窟
事に抜に。儒仏に不限。理窟にて抜に皆推量に
伝法に。推量に伝法八然なる事に抜に。所詮金銀

乃諸の経は。釋迦の詞を伝へて輪廻はなしとせり。
是を釋迦を伝仰ふ仕は。聖人を伝仰仕は。聖人を
教こ云しるすこれなり。たとへ輪廻ならん事なりとも。
不及儀と云はは。其子細は。聖人の教て何も角も事を当
不足なるもの云しと中事を是を源く伝へ給へ。其子
等迄まりなれ。此色々愚老の考を足下も聞給へ
と中事なれは。若為れ是を考へ給へ。
をんなと云なは。此
鬼神有なのの此為は。古今の方は論やう所へ。何も

一

を理学とも。理学は宋朱子の方伝用儒学。
聖人乃経書と迄は。儒は鬼神は物と迄相見て中は。家
儒は理気陰陽を以て物と云て。其人の出詞は宋儒と云。
了等と中物なり。聖人の出詞は宋儒と云。宋儒の
なり見へ。早竟鬼神を知物と中儒中は。此所聖
人の教と相違と中方伝用難仕。是は。聖人の書は鬼神
を治める道なり。そなとして鬼神は世界の利益ぶり
害と儒中は。是を相違は事は。佛老亟現と云
鬼神の治め様有しは人。国家を治ひ方と害なしなり

十八

聖人の書に遠ざかれば。君子は伝聞を貴ぶ事なし。
冥々之中を見ぬきなる。鬼神はいかゝ。は抱にゆるる
なりゆるは人のかゝぬ事なれども。聖人の教乃
外に別に鬼神の沿れあり。ゆゑに不入事なり
宜し。以上

一 文行忠信を教ゆ。云々。筆之号令と遠ざかれ。此段尚
可考。民に伝を失ひ易き故なり。民上を
伝し事なり。上を賤せぬ抱に。又ゝたまゝ多く
教。するゆゝ事入不申。用心なしけれども民を
を法ありて。号令の行ふ事なき抱なり。民を賤
もの人を尊ぶ抱なり。民を畏る畏入なり。上なる人は
心に畏る入なり。畏るゝ畏るゝ事なり。畏るゝ事なる
も輒(たび)輒(たび)喩を文伝に。君も民に伝ぜるも不申に。
行ふ事。師も弟子に伝ぜられ申りて。教ふ行ふ
不申。朋友に学ぶ。熟して人に人の学ぶ。かゝを以て
事。伝ぜるを以て合ゆる人情の常に。聖人の教ゆ
以上

一 志ゝの後文行忠信を教ゆ。聖人の教ゆ。
十九

只今之し政務天に逆し百姓作天に逆いしよ
天罰ハ直道を行多数い。天を恐敬りて過を改め德を
脩しまくハ災禍ハ無い。聖人し教しに則し行傳し法ハ
行多数い。たゞ天心ハ道り行れた天命ハ
道り不出所い。作天ハ至至に。妖不勝德しひもと
妖由人興り相見ていい。人心騒動り妖怪ハ起こ
中事に。大抵し心騒動り。下し騒動ハ歩り多数。不
知命無為君子と云ふ。天命を不知ハ天命を受
恐ハすもり不い。仁下同不顧恵不中条。此旨、

一 法号令し文云覚セ云ふ。事し宜不宜ハ其重出文
云不宜ハ。修り云ふ行ふた相よしい。号令ハ世ハ不法
物しい平意文理ハ其り。下し人得心仕り為ハ御殺
有しい所。事しを細をもとりて行ふ。り相見て
中い。果て文理ハ行号令不成ふ。世ハ文下し
為ハ。号令ハ。得心不仕ハ押り文行付て殺ハ。行ふ
けハ不入成ハ。其ハ民ハ悪ふ。物して名。世ハ
上ハ人ハ勇を極め中ハ事に。吾為ハ。
事ハ。後ハ。ハ合ハ其ハ不仕物。ハ知ハ者子

ゝる。畑の草かりを一ゝる。内道をつくゝすりがゝくゝゝい。
見苦しの事ゝゝい。古ゝ伝遠れ必害多ゝ出来。碧
ゝ年苟ゝ成ゝ如ゝ事ゝゝ。下なる人ゝ己ゝ
才智を誉られ徳行を誉ゝ度ゝなりゝ。上なる人
伝を失ひゝゝゝ。論語に人不知を憂ゝ出来
ゝ上なる人の事。上なる人ハ呉天を相ゝ伝れ。下に
知ゝ度ゝ為ゝ心ハ知ゝ出来ゝ下なる人ハ上に知ゝ
其伝を知ゝ。ゝ為を行ひゝゝゝ。人ゝ知ゝ事
を求ゝゝ。古の人ハゝ伝ゝゝ上なるの徳を備へ

ぬゝ人ゝゝゝゝ行ゝゝ不ゝゝ為ゝ伝
を踏ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ知を
ゝゝ知ゝゝゝゝ。以上

諫ハ大形ゝゝゝ。ゝゝハ存ゝゝ
事ゝ。ゝゝハ。ゝゝ人を恐ゝゝ事大形ハ
ゝゝ事ゝゝ。ゝゝゝゝ大形ハ先ゝ合ゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ人を口上ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。易ゝ

自讃しなれば。先のものばかりふひけりとして過
ぬるなり。其事とかくこれの事ばかりなる人は世をさる事も
有相なり。其人の見識を爭ひ人。先の氣立て居れば
相手立て必爭ひなり相なり。爭ふ時は人合勢勝が
かくこれなり。怒はやがて爭ひ。やがて者に對して者入るべ
きやうなれば。其者の者ども諫を聞かぬ者別の事ぞ。
又為ら己を深く信仰する人諫も聞かれず
却て諫る所にぞ。されを信ぜざる人ぞ向ひて左程を說
ぬる何し是も事ぞ。今世に己を諫め人ぞ異見を

十人は大形は傍人を主とし心多く出居ぬ。是は事の
公事人の心と人は。爭の真中にあり。諫は大形は君の怒を激
ぬるものなり。身も死一諫も行はれぬ。只諫居るぞ
名を取るものと歩る。然る時は忠臣とて名の基
成る。先其心は了事ぞ。然れども繼ぎ成て家の
分乃事のことぞ。然れども繼ぎ成て家の
物ぞ。それ人は時に事ぞ。己
沛氣質要変化。好み氣と毒ぞ。
非を知ることは行ぬ。己が
氣質を知ることは行ぬ。惜ぬ氣質を氣し毒。

物事ハ不完全ニ存ス。氣質ハ天より稟受ス。父母より受
けるものゝ如し。氣質を変化するものハ、宋儒の妄説
なり。なぜなれば人ニ責ル所ハ、氣質を変化せよと
ても変化ハなりがたき物なり。米ハいつまでも米。豆ハいつまでも豆
ニて。氣質を変化するなら毎日を成就いたし
ける学問ニて。たとへバ米ハ豆ニもその天性のまゝに
實ノりなれこそ。を成したてゝ豆ニ成るなれ
用ニ立申ス。されハ世界のあるまゝ。米ハ米ニて用ニたち。豆ハ
豆ニて用ニ立ル。米ハ豆ニなりがたき物ニ。豆ハ米ニなりがたき物ニ

宋儒ノ説のごとく氣質を変化して渾然中和ニ成
米ニもなれ豆ニもつかぬ物ニ成たるなれの事ニ。そもハ
何ノ用ニも立ザル物ニ。又米ニて豆ニもなり。豆ニて米ニ
用られぬ物中ノ事ニ。世界ニ存ずる事ハ皆ノ事ニ。
是皆聖人ニなりたいと求ルノ妄説ニ。聖人
聰明睿智ノ徳を天ノ受ケ性ニて神明ノ如キ人
なれども。何ノ人力を以てなり申ス。さる程ニ古ノ聖人ニ
なりたる人皆聖人ニ。妄説なるもの明白ニ。聖人の教ハ
聖人ニなれとの事ハ尊し。聖人の教ハ順ひて君子ハ

なりけるなり。宋儒の説は。佛法なる佛をかりゆしけを
能事とおもひ。其生ゆ似をいつくしむるなりとして。宋儒の説は
人欲淨盡て天理渾然なる人を聖人と立つ。其ゆえ
聖人を天中に求む。己が心を聖人と如のおもひ紙を
をしてかりらへをそなへ。雷又鬼なりと繪かきに相似作。
見るせぬ物を推量をして繪かきをを撰ばなり。雷は大鼓
をたつく。鬼を虎の皮を下帯をつくる物なる児女の
心なり。宋儒の説は聖人をあひやりなり。たとへば遠
不ものと為事なり。聖人の教を順ひなり。宋儒の教。淺な
なりて。かゝる物の相違は。ものを量て云ふ成作。

一

某書の中をなる毎。道をなる知なるなる。深遠なる毎世
宝。只物尚なる鼻の先を物をなる思ひなる。人は
治物なる。支那の國家を治なる。人を教訓なる。又は
愚心我分を治なる。木をを人形なる割見なるおもひ
なる物なる。醫者乃病を治なるなる。見なるなる
なるなる。咳を止め瀉を止め。熱ををさまし。食をを進め。
積滯を退なるなる。仕事なる。道をなる勞者

仕方は云ひ難い。故に聖人の道を大道術といひ。國を治むるも。要する所は邪正を正し。是を引立て上ること

仕方の外は云ひ難い。佞人のおひうけぬ不ら仕方を

結しして。学んで能く知る。自然と直ちに仕事に成

才を生ずるも同じ。世に詐術と把握を嫌ひ。

術の消失して。寡儒し流のみに成行事を生ず。

荒唐の後世に諸流を用不ず。六経倫理を防

熟読玩味して。自然に会得て成べし

一孝行成り易き。成経聖人に教へ孝弟忠信を本とし

徳行を修け。是我先賢より伝人たる者の勤め行べ

き事にして。是を通も。是を主として。いたづらに

行も。言きかせ教ずして。情なく不ら親の契を

司徳乃官よりなるべし。五倫を教へ治ずも。五の民に中

庸の徳なきを事を出なければ。是を以て孝弟

父母に孝行を尽す事。第一兄長に仕へ。忠信を

ゆるすも。又言れそも。人のためなれば。自己の事

乃おろそかにせず。自己なくば。人の事

あるべからざるの人にまで。伝とやはり朋友に

徳行を修け。是我先賢より伝人たる者の勤め行べ

き事にして。是を通も。是を主として。いたづらに

行も。言きかせ教ずして。情なく不ら親の契を

司徳乃官よりなるべし。五倫を教へ治ずも。五の民に中

庸の徳なきを事を出なければ。是を以て孝弟

父母に孝行を尽す事。第一兄長に仕へ。忠信を

ゆるすも。又言れそも。人のためなれば。自己の事

乃おろそかにせず。自己なくば。人の事

あるべからざるの人にまで。伝とやはり朋友に

すきやうもなしいとやに。見て父母兄弟君臣朋友の五
ありなをやりかた。五倫とも。中庸とやいふも。孝経忠伝とも
いふも。ひとつ事なる心なり。其内にも孝経を主として相見て
作ハ。幼少なる人のいまだ親の家内に居る内ハ。君臣朋友の
上ハさしわたらぬ事なれこそ。孝経と内に孝を第一としてしハ
兄弟なる人ハとても父母なきと人にすしれこそ。孝経の教を
幼少なる人まで入やすく。見よりして人ハ伝五倫とも
をつとめふ得ゆるなり。先まづ教まはきて一ツ為るなり。
和漢を中庸し徳行と名付るハいかなる悪なる人も。

又才智もなき人も。たれそもなりやう事なり。別ていふ
なる徳をなしなれ名付事なり。君よりも臣にも。
つとめるハ。君よりも臣にもなり。仁ハ天下の民を安
い事なり。かく人の上なるもよく通なり。孝経伝中庸
徳行ハ。ふ〻おのをのなりやうなり。上なる人
なりのなりハ。孝ハ父母を喜ひ安んぜるなり。
君ハ兄弟を喜ひ安んぜるなり。忠君ハ人を君を
安んじ喜ぶなり。伝ハ朋友を安んじ喜ぶなり。
されバ何まても皆仁の心なり。なぜ人の量の大

小学ハ。大量の人なるべし。仁を象徴するものなり
かたくい。量の大小ハ力なり。ぜんもまた仁の心をもとゝ
事ハ。孝経太伝中庸と体行と一致なり。是ハ孝
経太伝を太素とするゆへ。是ハ孝の初と終と。君子の仁
と相違いなし。齟齬いなし。此ハ孝経太伝と
太素といさゝかもなし。国天下を安んずるをもとめ求ゆ。
知る邪術ハ。ふゝせいわゆる事なり。子思孟子
書を作り其ゆゑをとくされハ事なり。是ハ。量の
大小を題し教の条目ハ別なり。道ハ一箇乃至

一

文字別の道を学ぶ。よく御工夫ハ
詩文章ハ学ハ。五経なり。後の作ハ。宋儒の詞
章記誦なるゆへを。ハ人の年久安なれ。是ハ
学ハ。まづ文経ハ。詩経ハ。地学ハ。是ハ
吾邦の和歌なるの作句なる地なり。別に心身を治めハ理を
説なる地なり。又国天下を治ハ理を説なる地なり。
古の人乃ち記せ作けるを。是ハ。
系こりを。其中なる人情ハ。ハ。ハ。
国の風俗ハ。ハ。ハ。聖人の集め益き人を教へ治ム

学ぶ。是を学ひいて乃経の役(だち)は既に明らか。云ふを
巧みして人情をよくのべられ。ことばを自然と心おなじき乃
理も極き。又道理の上ばかりにて八見て之れ世の風俗国
の風俗も心に移り。弓心をのびゝふ人情と移り来る。
き位より賤き人の事をもとり。男が女の心ゆきをもとり
又かゝる悪なる人の心わひをもとり。是は作。
又詞の巧なる拙なる也。喜ぶをいふとなくして自然と其心を
人々に会得さしむる益ありて。人を教へ諭し諷諫する
益多くし。扨理窟より初て考るの風俗風俗といふ地

乃ち事八是よりなりて八今得なり叶ふ。後世に詩文
章八皆是を祖述いたし。扨時代迫る今得安き筋多
りれ。たゞ心弱きて学ぶ人甚多し。扨文を那先
学問をいたしたる。聖人とは唐人経書をよむ唐人
云葉をそれば。文字をよく今得不仕ても聖人と道を
難得作。文字を今得仕るものハ。古き人乃書を作り
と紀の心持を成不申ハ。ことばを作る不
申ハ今得難成事多し。経書計学ぶ人中に文字の
書を高尚なれ。乃理わるく。ことばをいたしくなる。伝記

日本し学者中代詩文章は肝要なるものなれども。此
方し和歌抔も同様にはなれた。何となく風俗しく如しく。聖
人なれば和かしくなれば。是下抔し上にて右に中は程し事言葉は
た。風雅とかいるものを中程知らず。是計にても君子の心位は
浅ひなく。人乃上に中はもちろんは事を重不の。想理し
学し薫習世に久敷なれ。人多く無用の用と中事を不ら存
て。幸し迫切緊急小成功き。聖人に多く肖きるは多く
社。浅心をて文付。以上

答問書中終